

平成19年度事業報告書

学校法人東邦大学

目次

法人の概要	
1. 沿革	1
2. 組織	1～2
3. 役員等	2
4. 大学・学部校・病院の長	2
5. 教職員数	2～3
6. 株式会社東邦キャンパスサービス	3
事業の概要	
1. 教育研究の動向	
(1) 大学院医学研究科規程の一部改正並びに 長期履修学生内規制定	4
(2) 薬学部6年制教育について	4
(3) がんプロフェッショナルプロジェクト	
(4) オープン・リサーチ・センター	4
(5) ハイテク・リサーチ・センター	5
(6) 教学環境の整備	5
2. 学生生徒・入試等の状況	
(1) 入学定員・収容定員・在籍者数	6
(2) 平成20年度の入試状況	7
(3) 国家試験の状況	8～9
(4) 卒業生の就職状況	10
(5) 高等学校の大学合格実績	11
3. 医療	
(1) 付属3病院の概況	12
(2) 大森病院の再整備	12
(3) 佐倉病院新棟の竣工と改修工事	12
(4) 各診療科におけるホームページサイトの 整備と充実	12
4. 管理運営	
(1) 大学教員評価制度の推進	15
(2) 医学部機構改革の推進	15
(3) ブランディング・プロジェクトの推進	15
財務の概要	
1. 消費収支決算の概要	16
2. 設備投資等	16
3. キャッシュフロー	17
4. 貸借対照表	17



東邦大学

1931 生命の科学で未来をつなぐ

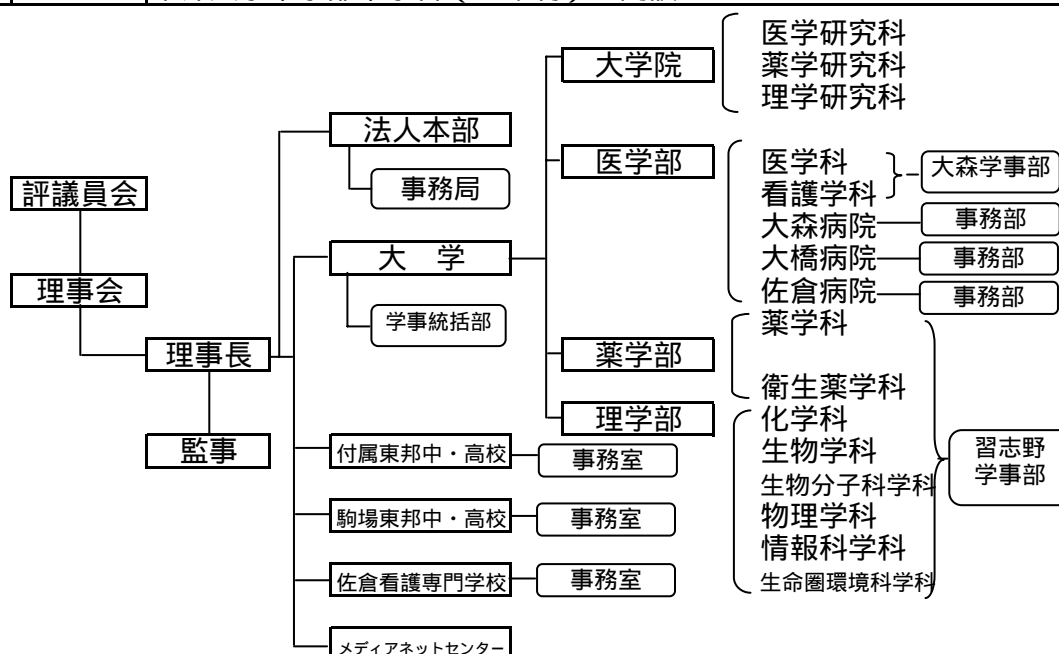
法人の概要

1. 沿革

本学は、額田豊・晉兄弟により、大正14年に帝国女子医学専門学校として開設されました。昭和2年には薬学科を増設、昭和16年には帝国女子理学専門学校を開設し、昭和26年に東邦大学と改称し、医学部、薬学部、理学部をもつ自然科学系総合大学として80年の歴史を刻んできました。その間、中等高等学校、看護学校を併設し、科学教育を通じた豊かな人間形成をモットーに、一貫した教育、研究、医療を実践してきました。

大正14年	1925	帝国女子医学専門学校 開設 帝国女子医学専門学校付属病院 開設
昭和2年	1927	帝国女子医学専門学校に薬学科を増設 帝国女子医学専門学校付属看護婦養成所 開設
昭和16年	1941	帝国女子理学専門学校 開設
昭和26年	1951	医科、薬科、理科専門学校を総称して、東邦大学とし、それぞれ医学部、薬学部、理学部と改称
昭和27年	1952	東邦大学付属東邦高等学校 開設
昭和32年	1957	駒場東邦中学校 駒場東邦高等学校 開設
昭和34年	1959	東邦大学大学院医学研究科 開設
昭和36年	1961	東邦大学付属東邦中学校 開設
昭和39年	1964	東邦大学医学部付属大橋病院 開設
昭和40年	1965	東邦大学医学部付属高等看護学校 開設
昭和54年	1979	東邦大学大学院薬学研究科医療薬学専攻修士課程 開設 (博士課程：昭和56年開設)
昭和57年	1982	東邦大学大学院理学研究科化学・生物学専攻修士課程 開設 (化学・生物学専攻博士課程：昭和59年開設) (物理学専攻修士・博士課程：昭和61年・63年開設) (生物分子科学専攻 情報科学専攻修士・博士課程：平成5年・7年開設)
昭和60年	1985	東邦大学医療短期大学看護学科 開設
平成3年	1991	東邦大学佐倉看護専門学校 開設 東邦大学医学部付属佐倉病院 開設
平成14年	2002	東邦大学医学部看護学科 開設
平成18年	2006	東邦大学大学院医学研究科医科学および看護学専攻修士課程 開設 東邦大学薬学部薬学科(6年制) 開設

2. 組織



[学部校・病院等の所在地]

学校法人東邦大学法人本部	〒143-8540	大田区大森西5-21-16
東邦大学学事統括部	〃	〃
医学部	医学科	〃
	看護学科	〒143-0015 大田区大森西4-16-20
薬学部	〒274-8510	船橋市三山2-2-1
理学部	〃	〃
付属東邦中・高校	〒275-8511	習志野市泉町2-1-37
駒場東邦中・高校	〒154-0001	世田谷区池尻4-5-1
佐倉看護専門学校	〒285-0841	佐倉市下志津292-13
大森病院	〒143-8541	大田区大森西6-11-1
大橋病院	〒153-8515	目黒区大橋2-17-6
佐倉病院	〒285-8741	佐倉市下志津564-1

3. 役員等

理事・監事 平成20年3月31日現在

理事	理事長	伊藤 元博
〃	東邦大学学長	青木 継稔
〃	常務理事	笹川 義弘
〃	〃	磯野 信行
〃	医学部長	黒田 優
〃	薬学部長	井手 速雄
〃	理学部長	小野 嘉之
〃	大森病院長	山崎 純一
〃	付属東邦中高校長	秋山 尚功
〃	医学部教授	丸山 優
〃	薬学部教授	加藤 文男
〃	理学部教授	大島 範子
〃	東邦大学名誉教授	柴田 家門
〃	薬学部鶴風会理事長	福武 勝彦
〃	理学部鶴風会理事長	加藤 尚之
〃	医学部教授	炭山 嘉伸
監事	公認会計士	都丸 信
〃	弁護士	西込 明彦

4. 大学・学部校・病院の長

平成20年3月31日現在

大学長	青木 継稔
医学部長・医学科長	黒田 優
医学部看護学科長	杉本 正子
薬学部長	井手 速雄
理学部長	小野 嘉之
大森病院長	山崎 純一
大橋病院長	甲田 英一
佐倉病院長	白井 厚治
付属東邦中高校長	秋山 尚功
駒場東邦中高校長	渡邊 俣充
佐倉看護専門学校長	拜原 優子

評議員 甲田英一 他53名

5. 教職員数

教職員総合計
3,543人
(常勤嘱託・再雇用・非常勤職員は除く)

教員 平成19年5月1日現在

	教授	准教授	講師	助教	計
医学部	97	60	99	247	503
薬学部	23	12	20	14	69
理学部	54	34	16	1	105
合計	174	106	135	262	677

	教諭		講師		専任教員	計	非常勤講師	
	中学	高校	中学	高校			中学	高校
付属東邦中高校	38	53	6	4		101	11	17
駒場東邦中高校	38	40	0	1		79	20	9
佐倉看護専門学校					13	13		
合計	76	93	6	5	13	193	31	26

職員

	事務	技術	医療技術	看護	技能	その他	計
法人本部	45			2			47
学事統括部	10						10
医学部	8	21		1			30
大森学事部	24					1	25
大森病院	110		240	998	16	2	1,366
大橋病院	66		131	435		2	634
佐倉病院	72		68	325	1		466
薬学部	1				1		2
理学部		3					3
習志野学事部	38			1			39
付属東邦中高校	7	1					8
駒場東邦中高校	7						7
佐倉看護専門学校	3						3
メディアネットセンター	33						33
合計	424	25	439	1,762	18	5	2,673
主な内訳	事務員327人 司書25人 その他72人	技術員18人 研究補助員6人 理科実験助手1人	薬剤師92人 放射線技師83人 臨床検査技師145人 栄養士33人 その他86人	看護師1,657人 准看護師16人 看護補助員89人	電話交換手9人 保育員8人 園芸技術員1人	用務員5人	

常勤嘱託職員、再雇用職員、非常勤職員は除く。

6. 株式会社東邦キャンパスサービス

平成12年9月に本法人が100%出資し、資本金20百万円で設立した営利法人です。

本法人が保有する資源を積極的に活用し、費用の内部還元、外部資金の獲得を目指し本法人の教育、研究、医療を支援することを目的としています。

また、当会社の事業であげた利益は、本法人の教育、研究、医療に役立てております。

第7期（平成18年9月1日～平成19年8月31日）決算は、売上高が44.3億円で前期比プラス19%と今期も順調に業績を伸ばしました。

事業別では、施設管理部門と物品販売部門の両事業が、全体の94%を占め、今期は特に物品販売部門で佐倉病院増床工事や薬学部新棟建設に伴う設備機器類の特需がありました。

来期は、東邦グループとの連携をさらに強化し、各部署のニーズにあったサービスを提供し、グループの更なる発展に貢献いたします。

事業の概要

1. 教育研究の動向

(1) 大学院医学研究科規程の一部改正並びに長期履修学生内規制定

平成20年4月1日より看護学専攻において職業を持つ院生の単位取得期間に余裕を持たせ、かつ経済的負担を軽減するため、標準修業年限(2年)を越えて一定の期間(3年)にわたり、計画的に教育課程を履修することが出来るようにすることを目的に大学院医学研究科規程の一部改正並びに長期履修学生内規の制定を行いました。

(2) 薬学部6年制教育について

平成18年度より、薬学部では6年制を開始しました。

薬学部6年の3年次秋学期から4年次春学期にかけて開講される疾患と薬学治療について、教務委員会主導の下で各担当責任者を選出し、講義内容の具体化に取り組んでいます。

今後さらに4年次秋学期以降に開講される薬学総合演習および臨床薬学実習についても順次講義内容の具体化に取り組んでいきます。

また、共用試験に向けた体制整備として、OSCEについては7月と9月の2回トライアルをそれぞれ実施いたしました。CBTについては、11月に2回、現4年生を対象にトライアルを実施いたしました。

(3) がんプロフェッショナルプロジェクト

本学が東京大学、横浜市立大学、日本大学と共同申請を行った「横断的ながん医療の人材育成と均てん化推進」プログラムが、文部科学省の平成19年度「がんプロフェッショナル養成プラン」に選定されました。これは質の高いがん専門医等を養成するための優れたプログラムに対し国が財政支援を行うことにより、大学の教育の活性化を促進し、今後のがん医療を担う医療人の養成推進を図ることを目的としています。

(4) オープン・リサーチ・センター

薬学部老化・老年研究センターでは、がん、糖尿病、高脂血症、アルツハイマー病、老人性痴呆症などの疾患について、その分子構造を明らかにし、予防や治療の開発を目標とした研究を行っています。

このセンター内での研究プログラム「細胞機能制御システムの破綻による老化関連疾患発症の分子機構と予防・治療に関する研究」が、文部科学省の平成18年度私立大学学術研究高度化推進事業オープン・リサーチ・センター整備事業(予算:5年間で267,800千円)に選定されました。

第3回公開セミナーを平成19年11月に、第4回を平成20年2月にそれぞれ開催し講演会・研究発表が行われました。

1.教育研究の動向

(5)ハイテク・リサーチ・センター

理学研究科の「複合物性研究センター」で行っている研究が、文部科学省の平成17年度私立大学学術研究高度化推進事業ハイテク・リサーチ・センター整備事業(予算:5年間で547,553千円)に選定され、3年目を迎えました。

物質化学研究の分野における化学専攻と物理学専攻の協力関係をさらに深め、生体系の研究分野やフォトポリマー等現実の応用分野まで広げることによって、新規な多機能有機物質の設計・合成ならびにその物性評価を行い、近い将来における電子機器その他デバイスのための素材物質や特異な光応答材料の開発を目指す研究です。

平成19年7月には第2回シンポジウム(テーマ:ゼロギャップ電気伝導体)を、平成19年10月には第3回シンポジウム(テーマ:新規多機能有機素材の創成と評価)をそれぞれ開催し、その成果が発表されました。

(6)教学環境の整備

医学部医学科3号館新築工事

医学部3号館は、主に医学部1年生、2年生を使用対象とした最新の教育視聴覚設備を備えた2つの講義室(第一講義室、第二講義室)があり、医学部初等教育の中核としてその役割を担っていくものと期待されます。

なお、医学部3号館には他に会議室や書店も併設されています。

医学部医学科解剖実習室改修工事

学生の解剖実習時に発生するホルマリン等の薬害対策として、医学部解剖実習室の全面的な改修工事が行われました。最新の換気システムを備えた教育環境のもとに実習が行われることとなりました。

薬学部C館竣工

薬学部新6年制教育の医療薬学教育拠点として、最新機器や大規模なメディア教育を可能とした各教室群を配置したC館が8月に無事竣工し、9月よりC館内の講義が開始されました。

C館は東邦大学薬学部の医療薬学教育の拠点とすべく建てられたものであり、他に例を見ないほどの最新の機器を設置した実務実習施設を備えています。

また、授業だけでなく各種講演会等にも使用できる大教室、大規模なメディア教育を可能にした中教室、これからの薬学教育の主流となるSGDへの活用を念頭においた小教室、医療薬学教育の中核となる医療薬学教育センター、学部外での実務実習や生涯教育の中核となる臨床薬学研修センター、薬剤学教室、薬物動態学教室等が配置されています。

その他

医学部で健康推進センター改修、2号館M2・M3トイレ改修工事が行われました。薬学部では、A館1~4階トイレ改修、B館1階・E館4階講義室改修工事等が行われました。理学部では、1号館1~3階トイレ改修工事が行われました。

事業の概要

2. 学生生徒・入試等の状況

(1) 入学定員・収容定員・在籍者数

学生生徒の在籍数は、8,348人で、昨年度に比べて217人の増加となっています。平成17年度に開設し、3年目を迎えた理学部生命圏環境科学科や附属中学・高等学校などが増加の要因です。

平成19年5月1日現在

大学院				
研究科	課程	入学定員	収容定員	在籍者数
医学研究科	修士	17	34	27
	博士	23	92	117
薬学研究科	修士	50	100	84
	博士	5	15	19
理学研究科	修士	81	162	166
	博士	21	63	39

大学				
学部	学科	入学定員	収容定員	在籍者数
医学部	医学科	100	600	620
	看護学科	105	410	443
薬学部	薬学科(6年制)	220	1,320	482
	薬学科(4年制)	-	-	536
	衛生薬学科(4年制)	-	-	
理学部	化学科	80	320	364
	生物学科	80	320	399
	生物分子科学科	80	320	394
	物理学科	70	280	317
	情報科学科	100	400	460
	生命圏環境科学科	80	320	235

中高校			
	入学定員	収容定員	在籍者数
附属東邦高等学校	368	1,104	1,152
附属東邦中学校	270	810	943
駒場東邦高等学校	250	750	704
駒場東邦中学校	250	750	721

注 附属東邦高等学校の募集人員は、350名です。
駒場東邦中学校の募集人員は、240名です。

専門学校			
	入学定員	収容定員	在籍者数
佐倉看護専門学校	40	120	126

	入学定員	収容定員	在籍者数
合計	2,290	8,290	8,348

(2) 平成20年度の入試状況

大学の出願者数は、看護学科を除き昨年度を下回り、過去5年間の推移を見ても出願者の減少傾向が続いています。来年度以降、さらに全学挙げての努力が必要です。

大学院

研究科	課程	募集人員	志願者数	入学者数
医学研究科	修士 (医科学専攻)	5	4	3
	修士 (看護学専攻)	12	11	10
	博士	23	36	33
薬学研究科	修士	50	78	63
	博士	5	2	2
理学研究科	修士	81	97	69
	博士	21	2	2

大学

学部	学科	募集人員	志願者数	入学者数
医学部	医学科	100	1,818	100
	看護学科	105	632	114
薬学部	薬学科	220	2,164	250
理学部	化学科	80	1,164	134
	生物学科	80	1,141	99
	生物分子科学科	80	782	86
	物理学科	70	530	84
	情報科学科	100	633	124
	生命圏環境科学科	80	634	84

中高校

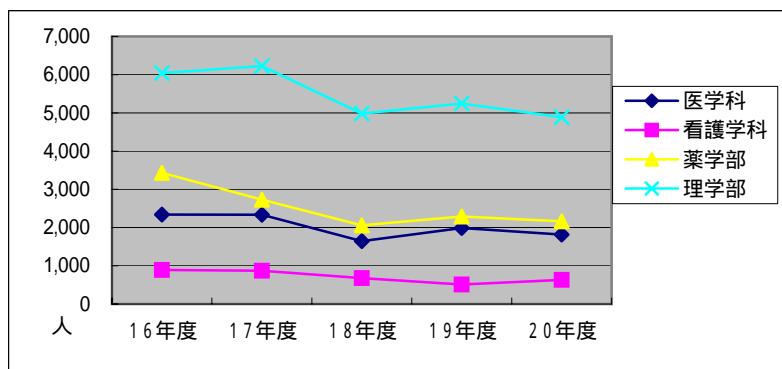
	募集人員	志願者数	入学者数
附属東邦高等学校	80	1,013	77
附属東邦中学校	270	2,848	260
駒場東邦中学校	240	677	240

内部進学者は除く

専門学校

	募集人員	志願者数	入学者数
佐倉看護専門学校	40	169	44

◇ 3学部における過去5カ年の志願者数の推移



学部	学科	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
医学部	医学科	2,340	2,335	1,647	1,990	1,818
	看護学科	891	869	677	512	632
薬学部		3,431	2,730	2,059	2,289	2,164
理学部		6,043	6,226	4,982	5,244	4,884
合計		12,705	12,160	9,365	10,035	9,498

(3) 国家試験の状況

国家試験の結果は、本学の特色の一つである医療系の職能教育を評価するうえで、重要なものの一つです。

平成20年の医師国家試験の合格率は、84.5%と昨年度を大幅に下回りました。また、全国平均にも達しない、残念な結果となりました。

薬剤師国家試験は、87.8%で前年度比2.2ptと毎年度好転しています。

看護師・保健師・助産師国家試験は、医学部看護学科、佐倉看護専門学校とも100%ないしは、それに近い結果をそれぞれ残すことができました。

また、臨床検査技師国家試験は、83.8%と昨年度より若干下回ったものの、全国平均を上回り、まずまずの合格率でした。

◇ 医学部医学科

医師国家試験

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	全国平均(%)
平成18年 (上記のうち新卒)	111 (95)	104 (91)	93.7 (95.8)	90.0
平成19年 (上記のうち新卒)	116 (109)	107 (102)	92.2 (93.6)	87.9
平成20年 (上記のうち新卒)	110 (100)	93 (87)	84.5 (87.0)	90.6

◇ 医学部看護学科

看護師国家試験

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	全国平均(%)
平成18年 (上記のうち新卒)	102 (102)	99 (99)	97.1 (97.1)	88.3
平成19年 (上記のうち新卒)	110 (107)	108 (106)	98.2 (99.1)	90.6
平成20年 (上記のうち新卒)	107 (104)	104 (104)	97.2 (100)	90.3

保健師国家試験

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	全国平均(%)
平成18年 (上記のうち新卒)	107 (107)	80 (80)	74.8 (74.8)	78.7
平成19年 (上記のうち新卒)	128 (111)	128 (111)	100.0 (100.0)	99.0
平成20年 (上記のうち新卒)	111 (109)	103 (102)	92.8 (93.6)	91.1

助産師国家試験

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	全国平均(%)
平成18年 (上記のうち新卒)	14 (14)	13 (13)	92.9 (92.9)	98.1
平成19年 (上記のうち新卒)	11 (10)	10 (10)	90.9 (100.0)	94.3
平成20年 (上記のうち新卒)	13 (12)	13 (12)	100.0 (100)	98.1

◇ 薬学部

薬剤師国家試験

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	全国平均(%)
平成18年 (上記のうち新卒)	283 (244)	236 (219)	83.4 (89.8)	74.3
平成19年 (上記のうち新卒)	305 (249)	261 (225)	85.6 (90.4)	75.6
平成20年 (上記のうち新卒)	302 (243)	265 (225)	87.8 (92.6)	76.1

◇ 理学部

臨床検査技師国家試験

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	全国平均(%)
平成18年 (上記のうち新卒)	41 (41)	32 (32)	78.0 (78.0)	72.9
平成19年 (上記のうち新卒)	31 (31)	27 (27)	87.1 (87.1)	74.7
平成20年 (上記のうち新卒)	37 (37)	31 (31)	83.8 (83.8)	73.7

18年、19年は早期卒業および秋季卒業生を含む

◇ 佐倉看護専門学校

看護師国家試験

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	全国平均(%)
平成18年 (上記のうち新卒)	41 (41)	40 (40)	97.6 (97.6)	88.3
平成19年 (上記のうち新卒)	32 (31)	32 (31)	100.0 (100.0)	90.6
平成20年 (上記のうち新卒)	27 (27)	25 (25)	92.6 (92.6)	90.3

(4) 卒業生の就職状況

医学部医学科の付属病院に進んだ卒業生は39人、看護学科は52人です。

薬学部では就職率99%で、病院、薬局への就職件数が133人で全体の76%を占めています。

理学部では就職率99.7%とほぼ全員が就職を決定しています。

佐倉看護専門学校は、21人の卒業生が、付属病院に就職しました。

平成20年3月卒業生

医学部

	付属病院	他施設	進学	その他	合計
医学科	39	48	0	13	100
看護学科	52	55	2	2	111
合計	91	103	2	15	211

薬学部

	病院	薬局	製造業	公務員
求人件数	515	490	110	62
就職件数	39	94	22	6
	その他	合計	就職率	
求人件数	83	1,260	99%	
就職件数	14	175		

理学部

	製造業		医療・保健	教育	公務員
	化学工業	その他			
求人件数	124	234	76	67	134
就職件数	26	34	18	18	8
	その他 (情報・サービス)	合計	就職率		
求人件数	848	1,483	99.7%		
就職件数	191	295			

佐倉看護専門学校

	付属病院	他施設	進学	その他	合計
看護学科	21	3	1	2	27

(5) 高等学校の大学合格実績

東邦大学付属東邦高等学校

国公立	合格者数	うち現役	私立	合格者数	うち現役
東京	4	3	東邦	58	48
京都	3	1	早稲田	92	66
一橋	2	2	慶應	54	42
東京工業	10	8	上智	39	24
東京医科歯科	3	2	ICU	4	1
千葉	27	24	東京理科	116	86
筑波	5	3	明治	75	59
横浜国立	3	3	中央	43	33
東京農工	3	3	日本	32	19
東北	4	3	立教	66	54
その他	27	13	その他	454	295
合計	91	65	合計	1033	727
うち医歯薬	16	-	うち医歯薬	165	-

駒場東邦高等学校

国公立	合格者数	うち現役	私立	合格者数	うち現役
東京	38	28	東邦	4	4
京都	3	0	早稲田	134	71
一橋	11	5	慶應	89	55
東京工業	7	5	上智	14	4
東京医科歯科	4	3	ICU	2	0
千葉	7	3	東京理科	37	20
筑波	2	2	明治	30	6
横浜国立	4	1	中央	31	4
東京農工	1	1	日本	3	1
東北	8	5	立教	7	2
その他	28	14	その他	75	34
合計	113	67	合計	426	201
うち医歯薬	25	-	うち医歯薬	51	-

3. 医療

(1) 附属3病院の概況

大森病院は外来収入が6,392百万円と前年度を上回ることができましたが、入院収入が16,801百万円と前年度を下回りました。大橋病院は入院収入が7,884百万円、外来収入が2,919百万円、佐倉病院は入院収入4,894百万円、外来収入3,450百万円とそれぞれ前年度を上回ることができました。

入院では、1日当患者数が大森病院851.7人、大橋病院417.3人、佐倉病院294.1人、1人1日当診療収入が、大森病院53,896円、大橋病院51,621円、佐倉病院45,464円でした。

外来では、1日当患者数が、大森病院2,316.1人、大橋病院1,290.8人、佐倉病院1,272.8人、1人当診療収入が、大森病院9,822円、大橋病院8,048円、佐倉病院9,681円でした。(P13~14別表)

(2) 大森病院の再整備

7号館解体工事

病院7号館において稼動していた精神神経科デイケア部門、病院病理部、臨床検査部(微生物検査室)、精神神経科医局等の他施設への移転が6月末に完了し、7月より7号館建物解体が始まり、12月末無事完了しました。

3号館外壁タイル改修工事

昨年、病院3号館の3階から6階バルコニー外壁タイルに一部浮きが生じたため、診療を継続しながら全面改修工事を5月より実施したが、工事に伴う騒音が著しくやむなく工事を一時中断しました。その後、外壁仕上げ材を含む工事方法の見直しを行い、12月に再着工し平成20年6月末工事完了を目処に進めています。

(3) 佐倉病院新棟の竣工と改修工事

平成19年7月21日(土)に新棟増築部を竣工、病棟及び外来の一部を移転して同23日(月)より運用を開始しました。病床数は増築当初は44床増の344床、平成20年5月より396床とし、平成21年度には451床(フルオープン)を運用する計画です。既存棟改修工事は、新棟増築部分の運用開始に併せた線回工事を経て、平成20年3月末日に完工しました。増築後の建物概要は建物面積12,690.76㎡(増築部2,199.57㎡)、延べ面積46,586.54㎡(増築部12,759.64㎡)、地上7階建てとなっております。

(4) 各診療科におけるホームページサイトの整備と充実

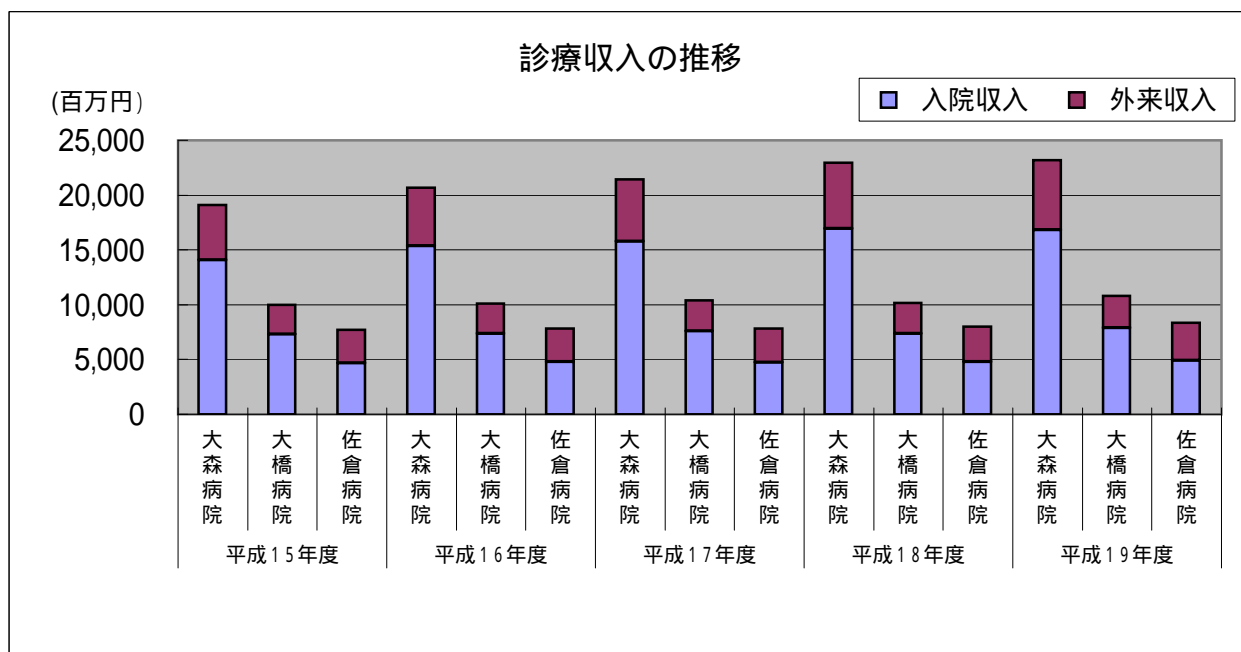
「患者の7割の方が受診前にホームページを見る」という調査結果があります。医療センター3病院のホームページに関しては、基本的な部分のリニューアルはすでに完了していますが、今後は患者さんにとって、より見易くわかりやすい情報を発信するために、診療科独自のサイトを充実させていく計画です。平成19年度は大森病院の心療内科、小児科、メンタルヘルスセンターイルボスコのページを公開しました。引き続き、全診療科サイトの公開に努めます。

◇ 病院別・診療統計別推移

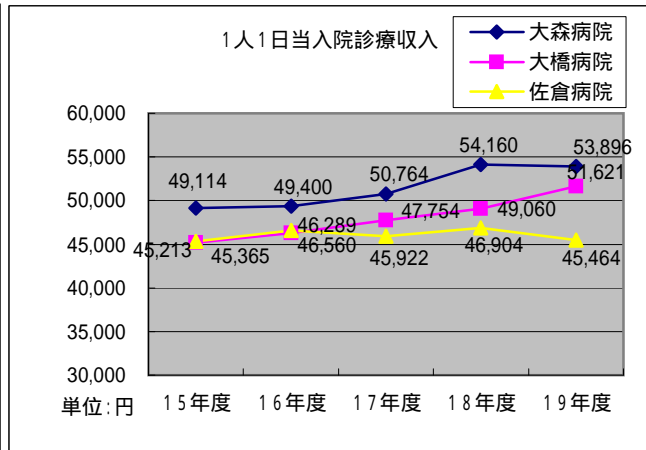
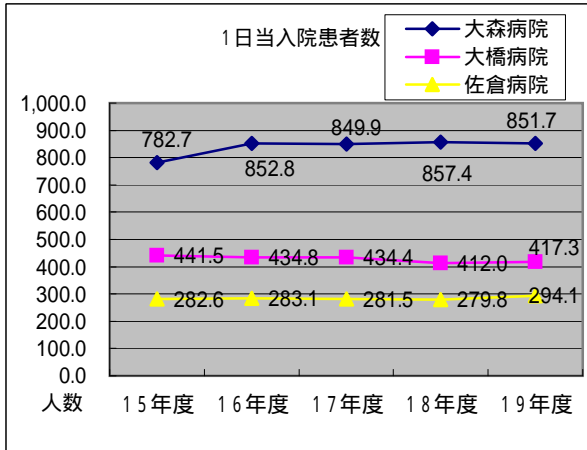
診療収入

(百万円)

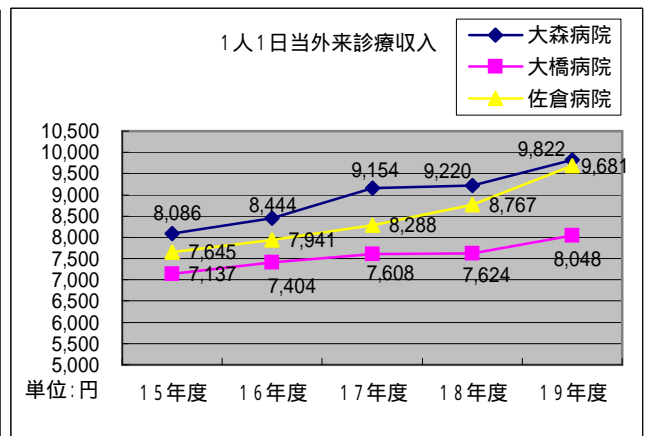
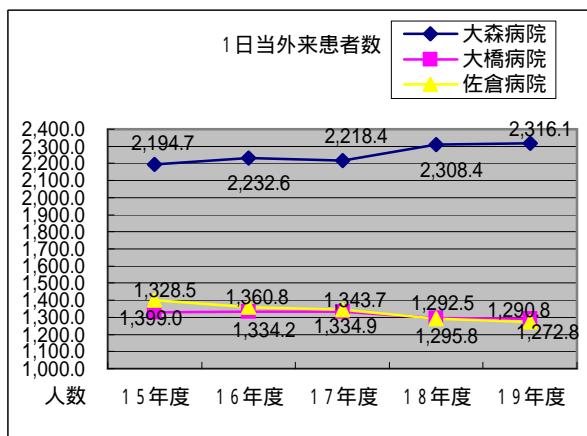
		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
大森病院	診療収入	19,109	20,673	21,454	22,930	23,193
	入院収入	14,087	15,376	15,748	16,949	16,801
	外来収入	5,022	5,297	5,706	5,981	6,392
大橋病院	診療収入	9,989	10,122	10,425	10,153	10,803
	入院収入	7,306	7,346	7,571	7,377	7,884
	外来収入	2,683	2,776	2,854	2,776	2,919
佐倉病院	診療収入	7,719	7,848	7,848	7,974	8,344
	入院収入	4,692	4,811	4,719	4,790	4,894
	外来収入	3,027	3,037	3,129	3,184	3,450



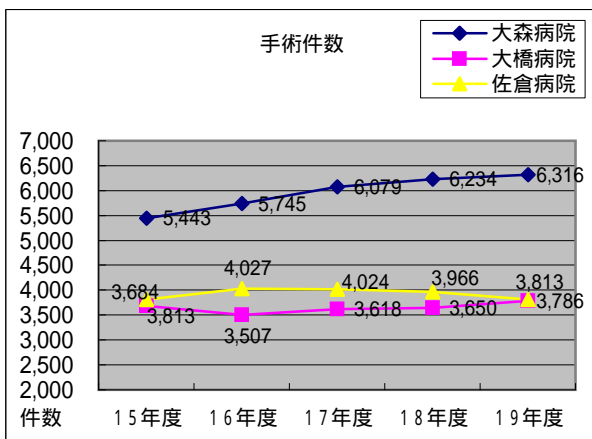
入院



外来



手術件数



4. 管理運営

(1) 大学教員評価制度の推進

医学科の教員評価制度においては、研究業績評価基準に基づく評価結果を、「教員任用申請時における申請者の任用資格の判定」や「大学院医学研究科委員会委員としての資格判定の一部」として用いています。また、学生による教員の授業評価を平成17年度から本年度まで部分的な評価基準の見直しを図りながら、継続して実施しています。さらに、現在医学科で組織される業績評価委員会では、新たに設定した診療業績評価基準に基づく、平成19年度診療実績調査を試行しています。また、教育評価項目の見直しも併せて審議検討しています。今後も、総合的な教員評価基準の構築、導入に向け、業績評価委員会による改善を逐次加えながら、更に精度の高い教員評価制度の確立を図ります。

(2) 医学部機構改革の推進

平成18年7月から、機構検討委員会委員の組織形態を改組し、いわゆる第二次機構改革に向けた審議検討を進めています。従前からの課題である講座・研究室・分野の統合と統合後に所属する教員がどのように教育と診療に係わるかを骨子として、これまで審議を重ねてきました。また、これと併行して、付属病院教員（病院）規程の改正についても審議を重ね、教授（病院）の任用手続において、新たに公募制や診療科審議会の設置などを謳った規程改正案を平成20年度から施行することとなりました。今後は引き続き、大森病院・大橋病院・佐倉病院に組織されている同一領域の講座・研究室・分野を機能的に統合することで人材育成強化につながる組織として再生していきます。また、大森病院・大橋病院・佐倉病院における卒前教育と診療の係わりや適正な教員定員についても、更に審議検討を重ねていきます。

(3) ブランディング・プロジェクトの推進

平成19年度は、東邦大学の視覚イメージの向上および定着を目的に、新しいコミュニケーションマークやステートメント、新デザインをあらゆるアイテム（名刺・封筒・ポスター・大学案内・パンフレット・各施設の看板等）に展開する取り組みを中心におこないました。また、建学の精神である「自然・生命・人間」のコンセプトをわかりやすく伝えるためのコンセプトムービーやコンセプトブックを作成し、特にコンセプトムービーについては、オープンキャンパスをはじめ、学内の会議や研修会、式典等でも上映をしました。

財務の概要

(1) 消費収支決算の概要

平成19年度決算は、帰属収入65,405百万円、消費支出64,962百万円で、帰属収支差額は442百万円の黒字となりました。前年度決算に比べ黒字幅が627百万円縮小いたしました。また、予算上では帰属収支差額を474百万円と見込んでいましたので、対予算比では32百万円の未達となりました。

基本金は2,450百万円を組入れ、年度末の基本金組入高は119,824百万円となりました。

尚、2,450百万円の組入れのうち第1号基本金として2,400百万円を組入れ、残りの50百万円は、創立80周年記念で募集いたしました寄付金を原資にして額田奨学基金に組入れた第3号基本金であります。その結果、基本金組入後の当年度消費収支差額は2,007百万円の支出超過で、翌年度繰越消費支出超過額は64,953百万円となっております。

予算(補正後)との対比では、収入においては、補助金、医療収入が予算を下回り、その他は予算を上回りました。このうち補助金は大学に対する経常費補助金の交付額が当初予想に比べ減少したため325百万円の未達となりました。医療収入は各病院とも前年度実績を上回る収入を上げたものの、対前年度予算比6.0%アップの予算に対しては、合計で2,078百万円の未達に終わりました。学生生徒等納付金は、理学部および付属東邦中高校で学生、生徒数が増加したために20百万円、寄付金は、創立80周年記念の特別寄付金および学生のご父母等からの一般寄付金が増えたため833百万円、雑収入は、退職者の増加に伴う私立大学退職金財団交付金の増額等により379百万円、それぞれ予算を上回りました。

尚、ご芳志を頂戴いたしました寄付者の皆様には心より御礼を申し上げます。

これらの結果、帰属収入合計では補助金および医療収入の落ち込みをカバーできずに、予算を896百万円下回りました。

一方、支出では、人件費が予算を414百万円下回ったほか、教育研究経費138百万円、管理経費173百万円、医療材料費も186百万円、それぞれ予算を下回っております。予算を超過した科目では、建物の取り壊しや、老朽化等で使用不能となった機器備品等の固定資産の資産処分差額が予算を442百万円上回りました。

これらの結果、消費支出の部合計は865百万円予算を下回りました。

また、基本金への組入額では、校地・校舎・機器備品・図書等に対する支出額である第1号基本金への組入額が予算を総額で3,367百万円下回りました。(別紙1-1~1-4)

(2) 設備投資等

本法人は、教学環境の一層の充実と、医療センター3病院等における高度先進医療の推進に向けたインフラ整備に全力を挙げております。

当年度は医学部の3号館建設、解剖実習室改修、実験動物センター改修工事を行いました。また昨年度からの継続案件であった大森病院7号館解体とこれに伴う再配置工事、佐倉病院増床工事、薬学部C館建設工事がすべて完了し、平成19年度のキャッシュベースの施設費、設備費の合計では9,094百万円となりました。前年度比では6,760百万円増加しています。

(別紙2-1)

(3) キャッシュフロー

別紙にお示しましたキャッシュフロー計算書は、学校法人の諸活動をA．教育研究活動、B．施設等整備活動、C．財務活動に区分し、それぞれの活動区分に対応するキャッシュフローと、事業活動のキャッシュフロー(A + B)および繰越支払資金の増減額(A + B + C = 当年度キャッシュフロー)の状況を明らかにしたものです。

19年度の教育研究活動では4,409百万円の収入超過ですが、施設等整備活動の支出超過8,323百万円に充当され、事業活動のキャッシュフローは3,913百万円の支出超過となりました。この支出超過額は、財務活動による収入超過2,624百万円により充当されましたが、繰越支払資金が1,289百万円減少することとなりました。以上の結果、次年度繰越支払資金は同額減少した14,760百万円となっております。(別紙3 - 1)

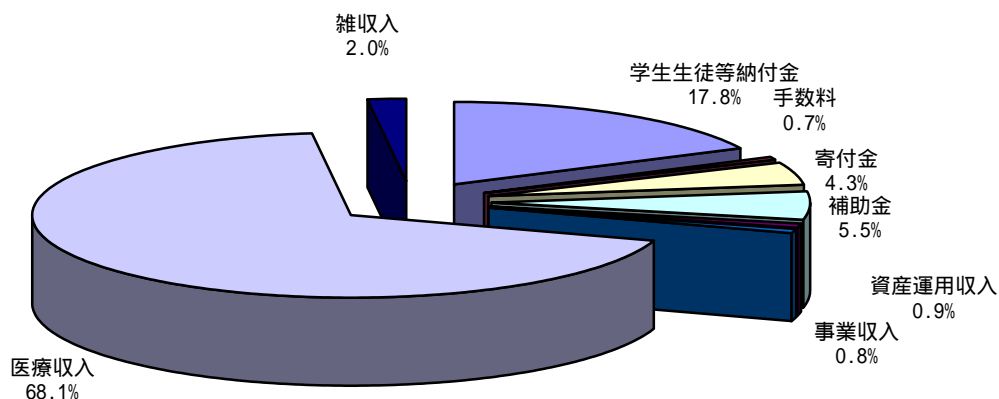
(4) 貸借対照表

平成19年度末の総資産は106,892百万円で、前年度に比べ3,776百万円増加いたしました。負債は52,021百万円で前年度比3,333百万円増加しております。そのうち、借入金は佐倉病院の増床に係る長期設備資金5,050百万円の新規借入があり前年度比3,162百万円残高が増加いたしました。

総資産から負債を差引いた正味財産(自己資金)は54,871百万円となり、442百万円前年度から増加いたしました。(別紙4 - 1 ~ 4 - 2)

平成19年度消費収支計算書（当該年度における収支の状況を明らかにするもの）

帰属収入（65,405百万円）の構成比



〔消費収入の部〕

(単位：百万円)

科目	予算	決算	帰属収入に対する構成比	差異
学生生徒等納付金	11,610	11,630	17.8%	20
手数料	406	432	0.7%	26
寄付金	1,959	2,792	4.3%	833
補助金	3,912	3,587	5.5%	325
資産運用収入	534	606	0.9%	72
資産売却差額	1	9	0.0%	8
事業収入	353	522	0.8%	169
医療収入	46,601	44,523	68.1%	2,078
雑収入	922	1,301	2.0%	379
帰属収入合計（ア）	66,301	65,405	100.0%	896
基本金組入額合計	5,817	2,450	-	3,367
消費収入の部合計（イ）	60,484	62,954	-	2,470

創立80周年記念寄付金を202百万円いただきました。また備品等の現物資産を57百万円ご寄付いただきました。

医療収入は佐倉病院増床等の効果により対前年度決算比で3.1%のアップとなりましたが、予算は未達に終わりました。

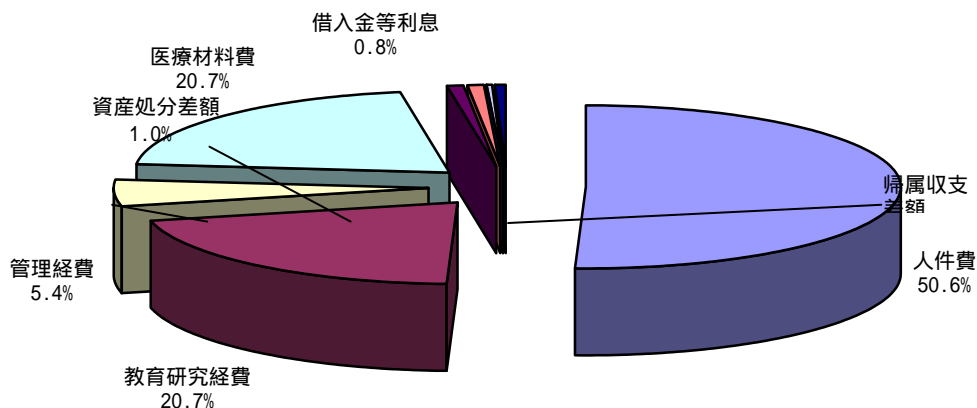
帰属収入とは、その年度の学校法人の負債とならない収入をいいます。従って借入金等はこの収入に含みません。

基本金とは学校運営に必要な資産（土地、建物、備品等）のうち自己資金で調達したものの取得額、あるいは奨学基金等の資産の額をいい、当期は約2.4億円増加いたしました。

- (注) 1. 百万円未満切捨て
2. 予算額は補正後予算

平成19年度消費収支計算書（当該年度における収支の状況を明らかにするもの）

帰属収入（65,405百万円）に対する消費支出（64,962百万円）の構成比



〔消費支出の部〕

(単位：百万円)

科目	予算	決算	帰属収入に対する構成比	差異
人件費	33,479	33,065	50.6%	414
教育研究経費	13,697	13,559	20.7%	138
管理経費	3,704	3,531	5.4%	173
医療材料費	13,754	13,568	20.7%	186
借入金等利息	573	553	0.8%	20
資産処分差額	222	664	1.0%	442
徴収不能額	22	0	0.0%	22
徴収不能引当金繰入額	75	21	0.0%	54
予備費	297	-	-	297
消費支出の部合計(ウ)	65,827	64,962	99.3%	865
帰属収支差額(ア-ウ)	474	442	0.7%	32
消費収支差額(イ-ウ)	5,342	2,007	-	3,335

人件費比率は前年度比で0.5ポイント低下いたしました。引き続き圧縮に向けて努力してまいります。

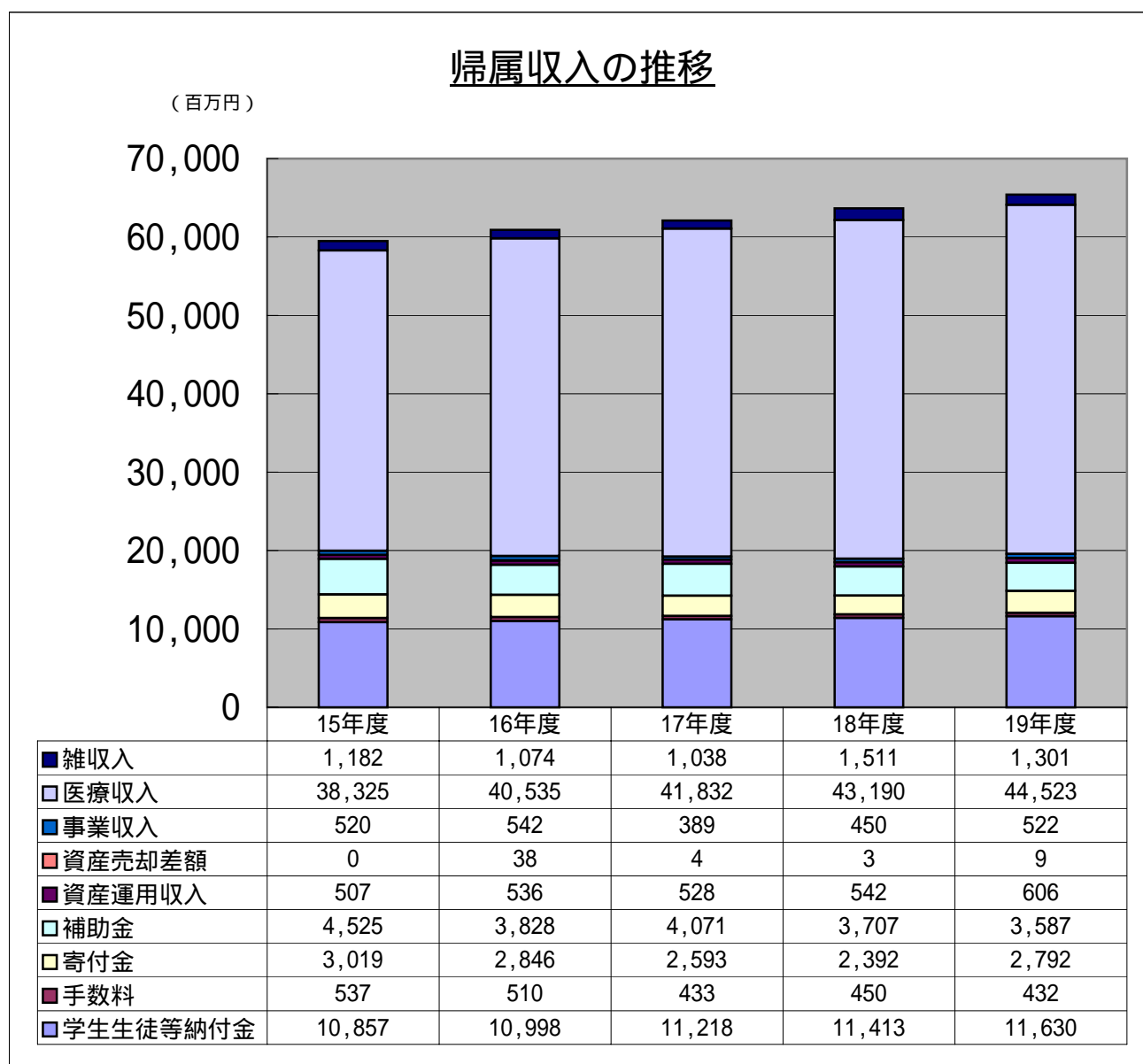
磐梯ロッジの閉鎖、大森病院7号館解体工事等で多額の除却損が発生いたしました。

企業等の経常利益にあたるものです。

(注) 1.百万円未満切捨て

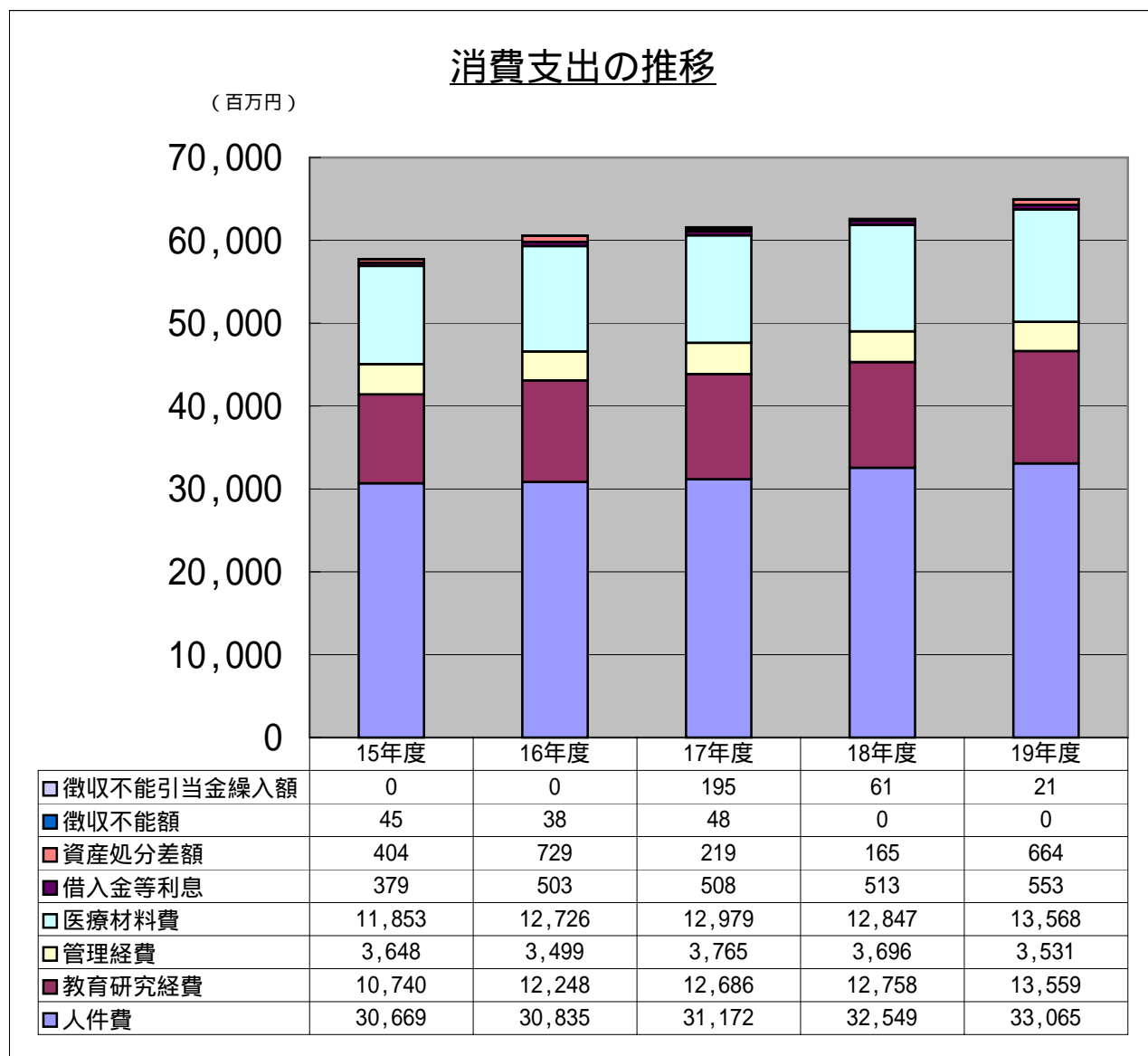
2.予算額は補正後予算

消費収支決算の推移



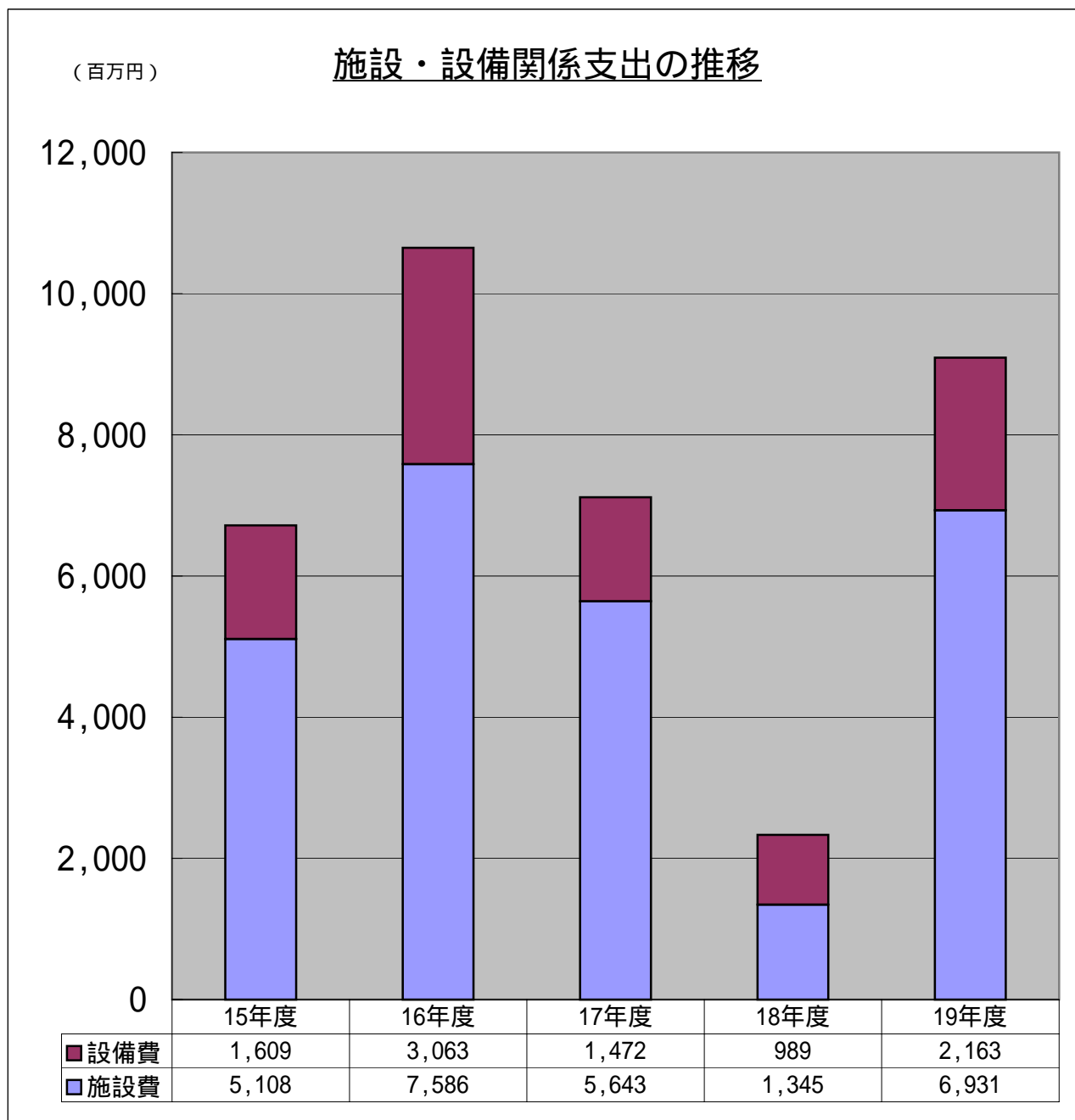
ここ5年間の帰属収入の推移を示しました。 学生生徒等納付金収入は漸増し、一方で補助金収入は頭打ちの傾向にあります。 平成19年度は佐倉病院の増床工事も完了し、今後は帰属収入の大半を成す医療収入をさらに伸ばすことにより財政基盤の安定化を図っていきます。

消費収支決算の推移



ここ5年間の消費支出の推移を示しました。 帰属収入の増加により消費支出全体のボリュームもアップしてきています。本法人の課題である帰属収入に対する人件費比率は、50.6%と昨年度より若干好転いたしました。引き続き50.0%以下を目標に努力を続けてまいります。 また平成19年度は各学部、病院において大型工事が完了したため、それに伴って消耗品費、修理費等が増加した結果、教育研究経費・管理経費合計で636百万円の大幅増加となりました。

施設・設備関係支出の推移



(参考)	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
施設・設備費計	6,717	10,649	7,115	2,334	9,094
減価償却額	3,032	3,723	4,010	3,999	3,906

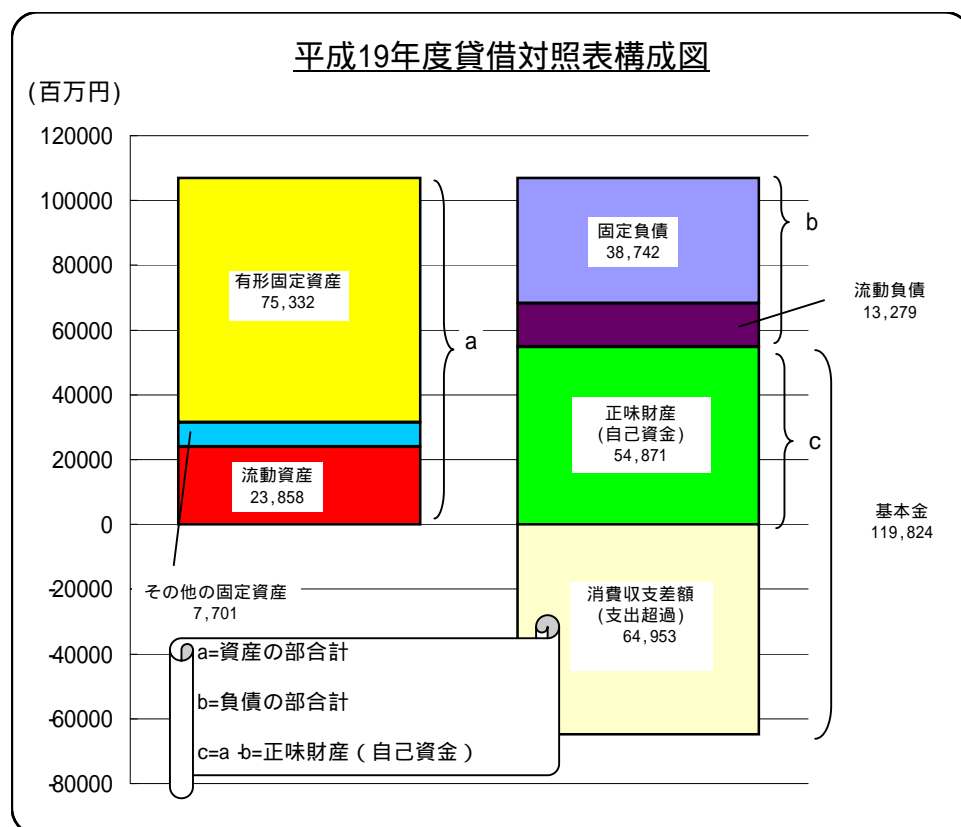
ここ5年間の施設・設備関係支出の推移を示しました。平成19年度の施設関係支出は、医学部3号館建設、解剖実習室及び実験動物センター改修工事、大森病院7号館解体に伴う再配置工事、佐倉病院増床工事、薬学部C館建設等により前年度比で大幅に増加いたしました。

キャッシュフロー計算書

(単位:円)

事業活動のキャッシュフロー	
A 教育研究活動のキャッシュフロー	
学生生徒等納付金収入	11,630,232,000
手数料収入	432,297,220
一般寄付金収入	2,497,819,194
日本私立学校振興・共済事業団補助金収入	2,218,141,000
地方公共団体補助金収入	1,100,082,786
日本私立学校振興・共済事業団学術研究振興資金収入	0
資産運用収入	606,120,708
事業収入	45,045,991,047
雑収入	1,299,464,629
前受金収入	4,467,613,000
前期末前受金	4,462,445,100
小計	64,835,316,484
人件費支出	33,133,010,451
教育研究経費支出	23,706,141,665
管理経費支出	3,033,287,867
借入金等利息支出	553,337,025
小計	60,425,777,008
教育研究活動のキャッシュフロー	4,409,539,476
B 施設等整備活動のキャッシュフロー	
特別寄付金収入	237,439,397
その他国庫補助金収入	269,066,749
不動産売却収入	0
前期末未収入金収入	7,716,023,160
期末未収入金	7,775,460,736
小計	447,068,570
施設関係支出	6,931,954,274
設備関係支出	2,163,060,881
手形債務支払支出	0
前期末未払金支払支出	4,803,701,864
期末未払金	5,116,823,001
前払金支払支出	127,644,909
前期末前払金	138,998,824
小計	8,770,540,103
施設等整備活動のキャッシュフロー	8,323,471,533
事業活動のキャッシュフロー	3,913,932,057
C 財務活動のキャッシュフロー	
有価証券売却収入	8,600,000,000
その他資産売却収入	2,500,031,500
借入金等収入	10,250,000,000
引当特定預金(資産)からの繰入収入	0
その他収入	918,111,514
その他収入調整勘定	0
小計	22,268,143,014
借入金等返済支出	7,087,860,000
資産運用支出	11,548,992,944
その他支払支出	1,139,884,694
その他支出調整勘定	133,010,448
小計	19,643,727,190
財務活動のキャッシュフロー	2,624,415,824
繰越支払資金の増減額	1,289,516,233
前年度繰越支払資金	16,050,386,890
次年度繰越支払資金	14,760,870,657

貸借対照表の推移

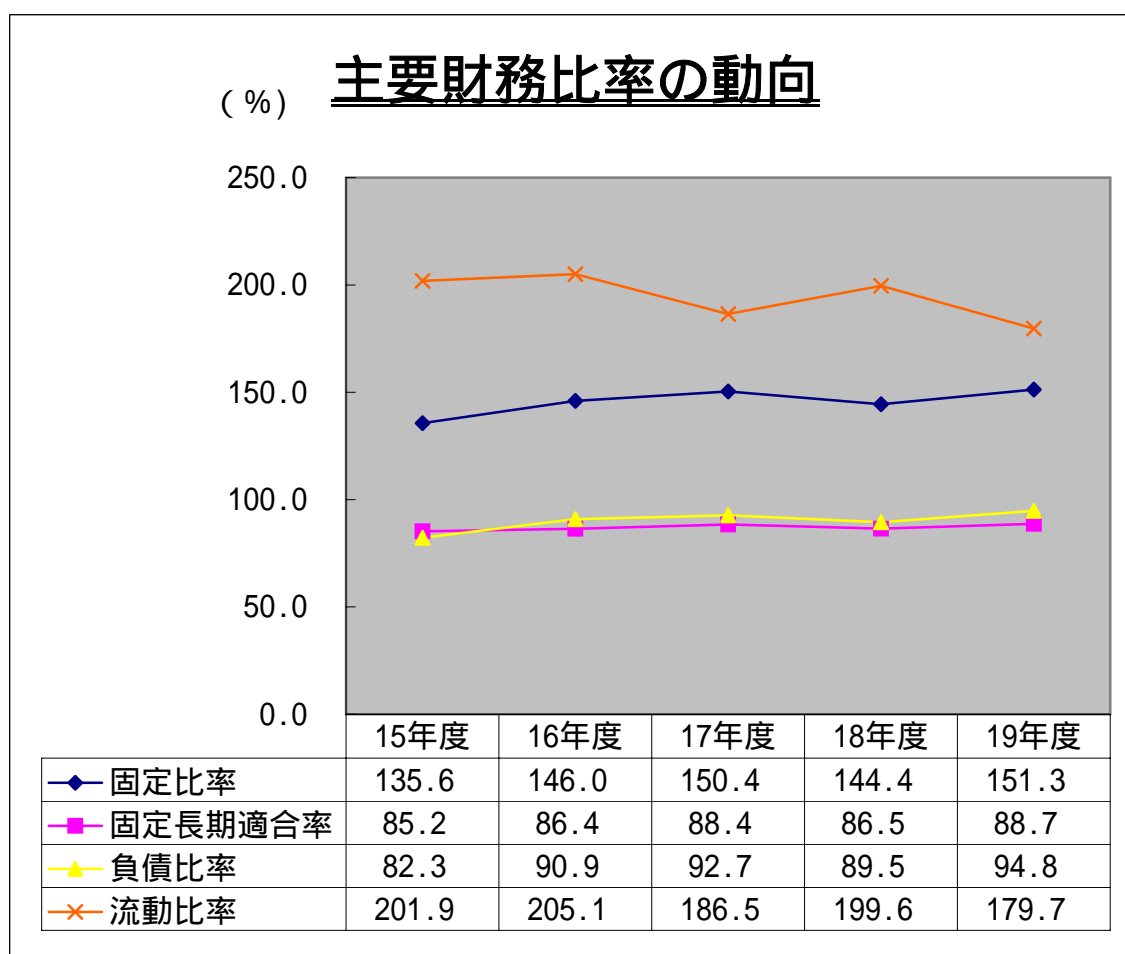


ここ5年間の貸借対照表の推移と、平成19年度の貸借対照表の構成図を示しました。ここ数年の投資により固定資産は順調に増加してまいりました。その多くを借入金による取得としたために借入金の残高は平成15年度に比して約78億円の増加となりましたが、平成19年度をピークに投資案件が一段落いたしますので以降は全学一丸となってバランスシートの改善に注力してまいります。

(単位：百万円)

科目	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	5年間増減
固定資産	71,187	77,137	80,230	78,590	83,034	20,307
うち有形固定資産	62,520	68,850	71,970	70,755	75,332	16,178
有価証券	3,716	3,319	3,319	3,420	2,719	1,109
指定金銭信託	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
流動資産	24,490	23,714	22,594	24,525	23,858	5,586
うち現金預金	17,091	15,730	14,519	16,050	14,760	6,858
未収入金	7,176	7,008	7,273	7,844	7,880	836
有価証券	95	896	399	398	1,000	401
資産の部合計	95,677	100,852	102,824	103,116	106,892	14,721
再掲(現預金+長・短有価証券合計)	(23,902)	(22,945)	(21,238)	(22,869)	(21,480)	(2,348)
固定負債	31,055	36,462	37,349	36,398	38,742	8,868
うち長期借入金	11,800	16,897	17,712	16,825	19,237	8,418
退職給与引当金	19,254	19,564	19,636	19,573	19,505	451
流動負債	12,128	11,564	12,116	12,289	13,279	1,741
うち短期借入金	2,219	1,681	1,787	1,887	2,637	637
未払金	4,856	4,802	5,029	4,803	5,116	556
前受金	4,251	4,237	4,351	4,466	4,472	224
負債の部合計	43,183	48,026	49,466	48,687	52,021	10,609
再掲(長・短借入合計)	(14,019)	(18,578)	(19,500)	(18,712)	(21,875)	(9,055)
基本金	109,734	112,175	115,397	117,374	119,824	13,705
消費収支差額	57,239	59,349	62,038	62,945	64,953	9,593
負債・基本金・消費収支差額の部合計	95,677	100,852	102,824	103,116	106,892	14,721
正味財産(自己資金)	52,494	52,826	53,358	54,428	54,871	4,113

(注) 百万円未満切捨て



本法人の財務の健全性を分析するために安全性分析のための指標を示しました。

固定比率 (%) : $\text{固定資産} \div \text{正味財産} \times 100$

固定資産のうちどの程度が自己資金で賄われているかを示す指標で低いほど良いとされています。

固定長期適合率 (%) : $\text{固定資産} \div (\text{正味財産} + \text{固定負債}) \times 100$

固定資産のうちどの程度が自己資金と長期の借入金で賄われているかを示す指標です。低いほど良いとされています。

負債比率 (%) : $\text{総負債} \div \text{正味財産} \times 100$

返済義務のある他人資金がどれだけ返済義務のない自己資金でカバーされているかを示し、低いほど財務の安定性が高いといえます。

流動比率 (%) : $\text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100$

流動比率とは、安全性分析の一指標で、流動負債（1年以内に返済すべき負債）を流動資産（短期間で換金可能な資産）がどの程度カバーしているかを示す比率です。この比率が高い程短期的な資金繰りに余裕があることを示します。